

第6回世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会

日 時：令和5年6月1日（木）午後6時31分～午後7時56分

場 所：教育会館 ぎんが

出席者：委員（15名）

【学識経験者】近藤委員（委員長）、細越委員（副委員長）、芳地委員

【総合型地域スポーツ・文化クラブ代表】岸田委員

【地域団体関係者】宮幸委員

【保護者代表】栄委員、松浦委員

【区立中学校教員】宮内委員

【せたがや文化財団事務局長】志賀委員

【世田谷区スポーツ振興財団事務局長】浅野委員

【区職員】大澤委員、渡邊委員、小泉委員

事務局（4名）

1 開 会

2 会議録の確認

3 部活動地域移行に係るトライアル事業の取組みについて

（1）トライアル事業の実施状況について

（2）アンケートの質問内容について

4 部活動地域移行に係るキャッチフレーズとその趣旨について

5 その他

（1）報告書の中間まとめ案について

6 閉会

午後 6 時31分開会

○委員長 では、定刻になりましたので、第 6 回世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会を開催したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度も、皆様方には、昨年度から委員、職員の皆様には引き続きよろしくお願いいたします。また、新しく来られた委員の皆様には、どうぞよろしくお願いいたします。

この 4 月に委員の交代があったので、事務局よりそこについて御紹介をお願いします。

○事務局 では、御説明します。資料 1 の委員名簿を御覧ください。この検討委員会の委員の中で、区の職員の人事異動や組織改正によって委員が交代された方が代わられておりますので、御紹介をいたします。

まず、せたがや文化財団の志賀毅一事務局長でございます。

○委員 志賀でございます。遅くなって申し訳ございません。

○事務局 それから、世田谷区生活文化政策部、渡邊謙吉部長です。

○委員 渡邊でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局 次に、私どもの課が、この 4 月に組織改正がございまして、以前の生涯学習部から学校教育部に変更しました。そのため、以前から出席しております委員の学校教育部長、小泉が事務局所管課の部長として今日から出席しております。

○委員 よろしく申し上げます。

○事務局 なお本日は、加藤委員、大塚委員が欠席で、出席は13名でございます。

御説明は以上です。

○委員長 ありがとうございます。それでは、20時が目途ですので、早速次第に沿って進めていきたいと思っております。まず次第の 2、議事録の確認でございます。皆様の席上に第 5 回の会議録の案がございます。皆様方には事務局から事前に、この会議録の案が行っていると思っております。この御指摘いただいたところは既に修正されているかと思っておりますが、何か追加事項がございましたらお申し出いただければと思っております。また、時間はあまりありませんので、最後にもう一度お聞きしたいと思っておりますが、まずこの段階で修正、訂正がございましたら御意見いただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

では、御意見ありませんので、一旦第 5 回の会議録については案のとおり承認いただくという形で、また最後のほうに御意見がありましたらお願いします。

では、次第に従って 3、部活動地域移行に係るトライアル事業の取組についてを事務局より説明をお願いします。

○事務局 では、私からトライアル事業の実施状況について御説明します。資料2を御覧ください。A3横型の資料をお開きいただいて御覧いただければと思います。

それではトライアル事業について、前回まで口頭で御説明していたかと思いますが、無事幾つかのトライアル事業が始まりましたので、簡単に御説明します。

まず、上の2つが世田谷区スポーツ振興財団が行っているトライアル事業です。左上が船橋希望中学校のソフトテニス部です。これについては、指導者がソフトテニス連盟の指導者に主に御指導いただいて、大学生や財団の職員などが行っております。週2回程度の部活動を、実際に顧問の先生に代わってしていただいております。場所は船橋希望中学校のソフトテニス部がこれまでやっている校庭を利用しております。

これについては、いわゆる部活動の指導者が顧問の代わりに担うという形での検証ということで実施しております。4月の初めからトライアルが開始されております。

右側ですが、陸上部の合同部活動という形で、同じく世田谷区スポーツ振興財団によるトライアル事業です。これは会場を総合運動場のグラウンドで、砧中学校と船橋希望中学校で、通常は学校で陸上部をそれぞれやられていますが、週に1回、総合運動場のグラウンドに合同で集まって、夕方2時間、平日が主になりますが、夏休みなどでは土日も含んで予定しておりますが、2時間程度、合同部活動を行うということで、指導者は、部活動の指導をされている顧問の方がそれぞれ協力し合って行う、それから、財団などでも専門の指導員が協力するという形を想定しています。これは運動系の合同部活動のトライアルということで進めております。5月の中旬から開始しております。

それから、図で言うと右下になりますが、東深沢スポーツ・文化クラブ、総合型スポーツ・文化クラブによるトライアルです。これは東深沢中学校の体力向上部でして、週に3回、朝の部活で、7時20分から8時まで実施しています。総合型クラブの指導者が指導を行っております。これは、総合型スポーツ・文化クラブが部活動の地域移行をやっていくに当たって、どのような形でできるかとか、経費なども含めて検証していこうということでございます。これは4月の初めから開始しております。

左下ですが、せたがや文化財団による演劇部の合同部活動、これは文科系の合同部活動のトライアルとして行います。5月に説明会、オリエンテーションを行って、多くの方に御参加いただいております。6月から1回目のワークショップが開始されるということで、活動内容にございますが、初夏・夏休み・秋・冬の4つのワークショップを始めるという形になっております。秋のワークショップでは、計16日の練習をして、区大会で発表する

という形になっております。

御説明は以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは順番に、今回トライアル事業に関わって担当されている職員、委員の皆様から、進捗状況、やっていく過程での手応えとか、これからの準備状況等について御説明いただければと思いますが、まず東深沢スポーツ・文化クラブの委員、どうぞよろしくお願ひします。

○委員 体力向上部の補足をちょっと説明しますと、週に3回、朝やっていますが、この目的は、体力の向上とスポーツを楽しく行うことと、早朝からの活動により基本的な生活習慣の獲得を目指すことで、朝7時20分から8時の間に週に3回やっています。生徒は、スポーツが好きではない子もいますし、サッカークラブだとか、そういう得意なクラブに入っている子は、夕方、学校のクラブには行けないので、この体力向上部で体を鍛えるという生徒たちがおり、今1年生も新しく加入されて46名で毎朝、3日間やっています。

ここの中の、先ほど御説明いただいた右側に書いてある「様々な種目を体験できる」ということが総合型の中でできるのではないかということで、今やっているのは、ワンバウンドでもいいですよというバレーボールとか、ドッジボールも、運動神経がよい子がやるとひとり勝ちしてしまうので、3つボールを入れて楽しくやるとか、今までそのような形でやっていたのですね。

我々のクラブのバドミントンの指導者が行って、バドミントンもやっているのですが、持ち方とか打ち方などを今度指導しようかということが今、話に出ています。

野球の指導者は、この間も、ボールの投げ方は、今、投げたことがない生徒が結構いるので、ボールの投げ方をこの生徒に教えるということ、今徐々にやろうとしています。

この右下に書かれている「教員の負担軽減」ですが、前年度まで顧問は2人いたのですが、今年度から1人になって、我々地域の指導者が2人ということで、3人体制でやっています。徐々に移行して、我々のほうでできるような形で、今後持っていこうと思っております。一番寄与していることは、働き方改革の中の、早朝の7時ぐらいに学校の先生が1時間ぐらいかけて来なければいけないというところを、我々は5分、10分で、地域に住んでいますから、地域の指導者がそこで指導ができるということを探索しながら、今やっている状況です。

○委員長 ありがとうございます。

では、続いてスポーツ振興財団の委員よりお願いします。

○委員 まず、ソフトテニスについては、中学校に講師を派遣する形でやっています。4月10日からスタートすることができまして、テニス部の規模ですが、生徒が32名で、男子7名、女子25名という規模です。世田谷区ソフト連盟さんから2名の方を講師で、曜日が違う日ということで派遣するとともに、私どもの財団にも国体に出る級の活動をしている職員がおりますので、世代も近いということで、実際に模範演技とかをやってもらって、生徒も喜んでいただいたという経緯がございます。

テニスについては、顧問の先生がテニス専門の、昔、競技をやっていたとかいう先生ではないことから、やはり専門家の派遣ということで、先生、それから生徒ともに喜んでいただいていると伺っております。

それから、陸上のほうは合同部活動ということで、学校の先生を中心にといいますが、先生と共に、財団の職員も、やはり陸上競技をやっていた職員も参加して一緒に活動等をしている状況でございます。

それから、6月からは大学の陸上部の学生2名のサポートも予定しております。

なお、ソフトテニスにつきましても、近隣大学生の、近隣大学の発掘を、今は検討しているところです。

こちらについては、場所が総合運動場の陸上競技場ということで、設備がよいということで、こちらについては生徒さんからはかなり好評ではあるのですが、どうしても移動に時間がかかるということで、私も実際に歩いてみたのですが、船橋希望中の場合は40何分かかかる、あと、砧中の場合は20分ぐらいなので、比較的には近いのですが、一応今は歩いて通っていますので、自転車等を使える可能性があるかどうか、学校に自転車で行って、そこから来るというわけにはいかないの、ちょっとなかなか難しいところはあると思うのですが、そこが1つございます。

それから、スタートがどうしても若干遅くなりますので、午後5時からのスタートで、そちらについては先生の御負担という部分もあるかなということがございます。今後、活動の方式、先生への手当等の部分がどのような形で可能なのかとか、外部の指導者とか、そういうことの模索も必要かと思っています。

ただ、2校が一緒にやることによって、やはり回を重ねるごとに慣れてきたということで、互いに教え合ったり、学校間の交流も見られていると聞いておりますので、そういう意味では、生徒さんにとってはよいのかなと思っています。

私からは以上です。

○委員長 ありがとうございます。

続いて、6月からスタートする予定のせたがや文化財団の委員、お願いします。

○委員 ちょっとこの資料だけでは分かりにくいかなと思ひまして、裏に一部、5月15日に、中学校の演劇部の活動のオリエンテーションで配った資料をつけております。せたがや文化財団で行うものですが、せたがや文化財団の中でも世田谷文化生活情報センター、その中でも世田谷パブリックシアターが中心になって行うものでございます。

世田谷パブリックシアターについては、演劇に特化した劇場を持っていることと、そこで創作もしておりますし、また教育普及事業もやっている中で、お手伝いができることという形で、このような形を提案しております。

実際の始まりは6月24日からですが、このA4判のペーパーの左下に書いていますが、まず初夏のワークショップとして6月24日、25日、2回やります。

夏休み期間に入っては全3日の工程で7月31日から8月2日、これはいずれも世田谷パブリックシアターの稽古場というところで実施します。

④の秋のワークショップは、10月28日に、区の中学校の演劇部の大会が、毎年、世中研の演劇部——だと思ひますが——で行われておりますので、そこに向けて発表する作品をつくっていくものになります。

そして、冬のワークショップを3月に1日やります。

演劇部の活動、これからはなりますが、演劇をいきなり、例えば台本があつて、それを役を振ってやってみようというよりは、演劇というのは表現活動です。表現活動を、身体を使ってどのような表現をするのかを、子どもたちで話し合ってもらって、その中から演劇をつくり上げていくというステップを考えてございます。

講師になるのは、当然、当パブリックシアターの職員及び演劇等をつくっているグループというか、劇団というか、ございますので、そういうところと協力しながらやっていく予定でございます。

どうしても人数の制限が出てきますので、定員は15名としておりまして、現在の状況では、もう定員で埋まっているというような状況でございます。

私からは以上です。

○委員長 ありがとうございます。どのトライアル事業も、大変魅力的な活動だなとちょっと感じたところですが、今御説明があつたトライアル事業、事務局から、それから各

委員からの説明がありましたが、ここで一旦御質問、御意見を受け付けたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 ちょっとそれぞれの団体さんにお聞きしたいのですが、今、陸上のところからは会場移動の問題がちょっとあるのではないかという課題が出されたと思いますが、やっている東深沢さんと文化財団さんでやっている中で、文化財団さんはまだですね。だから、東深沢さんのほうだけですが、1か月ちょっとやってみて、こういうところは課題として出ているというようなところがあれば教えていただきたいと思ったのですが、いかがでしょうか。

○委員 現在は、我々が指導と言うより、学校の先生がいろいろな掛け声をして、生徒たちが好きな種目をやるということですね。今後は、シーズンスポーツにしたり、今度我々が指導してくださいということも頼まれておりますので、今12名いるのですが、やはり研修をまだ受けていませんので、そのスキルアップが一番の課題だと思います。

○委員 ありがとうございます。

○委員長 移動の話は大丈夫ですか、委員。

○委員 はい、これからまたアンケート等を取りたいと思っていますので。

○委員長 そうですね、分かりました。

そのほか、御質問、御意見はございますでしょうか。

○委員 それぞれでお伺いしたいことが1つあって、費用のところは、何かこれ、別に予算みたいのがあってやっているのか、既存の枠組みの中でやっているのかという、さっき、経費が出てくるところもというお話もあったのですが、もうちょっと詳しく聞きたいことが1つ。

あと、外部の指導員が入っている事業に関して、例えばその生徒の出欠とか、予定の変更といった連絡みたいなことが、どういうツールを使ったり、方法を取っているのかというちょっと細かい質問ですが、教えてください。

○委員長 では、まず事務局からお願いします。

○事務局 では1つ目の御質問で、経費についてだけ御説明します。今回このトライアルを始めるに当たって、予算取りをしております。それぞれの団体から活動計画を出していただいた上で、おおむね1つの事業にそれぞれ100万円ずつの予算を計上しております。その中で、実際にどのぐらいの経費がかかるかも検証項目という形で進めております。

○委員長 今年に関しては受益者負担で、いわゆる生徒の保護者からは取っていないとい

うことですね。

○事務局 そうですね、今回は世田谷区の予算でトライアル事業をやるという形になっておりますので、生徒からは参加費は取らずに御参加いただいております。

○委員 内訳とかも、例えばその100万円が指導者の報酬に充てられる割合とか基準みたいなものも、これからやりながら決めていくということですね。

○事務局 そこは、それぞれの計画でやっていただいているので……。

○委員 活動計画に沿ってと。

○事務局 逆に少しずつ違いますから、もし御発言いただけるようであれば、少しお話しいただければと思います。

○委員長 お願いします。

○委員 スポーツ振興財団からお話しします。私ども、こちらで経費、100万円というお話がありましたが、一応概算契約で、かかった費用を御請求申し上げるということで考えております。特別に私どもは、分かりやすい言葉で言うと、もうけを目的に動いているものではございませんので、例えば講師謝礼とか、もし物品を買う、それほど物品は必要なく、既存のもので間に合いますが、そういうものがあつたときには、そちらに費やすということで、私ども職員の例えば人件費とか事務費をいただくということは基本的には予定しておりません。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 文化財団ですが、基本的に今、スポーツ振興財団の委員がおっしゃった点と同じです。ただ、演劇活動は意外に細かいものをいろいろつくることがあって、お金がかかる部分はあるのですが、今回は教育委員会からの受託という形で、そこを賄う予定となっております。また、人件費云々は、公益財団法人として区からの援助もいただいておりますので、その中で一括してやるという考え方でございます。

○委員長 ありがとうございます。東深沢スポーツ・文化クラブはいかがでしょう。

○委員 現在は、実際は使われてはいないのですが、予算組みとしては人件費、指導者、それから事務局、コーディネーターができるのかなということで、どのぐらい人件費が、事務局にかかるのかなということも、ちょっとトライアルしようと思っております。それから物品とか、研修費用とか、あとはジャンパー等ですね。今はクラブのジャンパーをみんなおそろいでやっていますが、今後ちょっとどうするかも検討です。

○委員長 ありがとうございます。

もう1点、委員から質問がございました、様々な予定変更や出欠等の連絡をどのようにされているかを少し教えていただけるとありがたいのですが、いかがでしょうか。

○委員 今回のトライアル事業ですが、まず学校の管理下ということが前提条件になっていますので、顧問の先生は、学校には必ずいるということでやっております。船橋希望中学校のソフトテニスについても、まず学校でやっているということで、顧問の先生はいますし、陸上についても、総合運動場に学校の顧問の先生は必ず付添いで来ていただきますので、出欠の確認とか、あと事故はあっては困るのですが、仮に事故があったときに、私ども受託した者から、例えば保護者への連絡という、保護者も、その受託の事業者から連絡が来たら「えっ」という感じになりますので、そこら辺については基本的に学校を通してという形で考えております。

○委員 文化財団です。当財団のトライアルは学校がばらばらです。したがって、当然、本人が例えば体調等の問題で来られないという連絡はパブリックシアターのほうに入ると思いますが、それについては学校にきちんと連絡するという形になってございます。また、事故が起こったときも同様で、当該生徒が在籍する学校に直ちに連絡をして、その後の対処は、多分一緒に検討する形になるとは思いますが、常に学校との連絡体制は、ツールとしては、多分、緊急のときは電話がメインになるろうかと思いますが、メールなどを使って、常に連絡が取れるようにということは、教育委員会を通じてお願いしてあるところでございます。

○委員長 委員、東深沢スポーツ・文化クラブはいかがでしょう。

○委員 予定については「調整さん」というツールで、我々が前月までに、誰が行くということを学校の顧問に伝えております。学校の顧問の先生と私と事務局、3人でグループのLINEをつくっていて、そのLINEで予定、実績などを連携しております。

それから、生徒の出欠については、生徒のほうは、まだ個人情報等があるので、我々は現在は関知していないという形でやっております。

○委員長 ありがとうございます。貴重な視点かなと思いました。トライアルのところでは、やはりまだ教員、先生たちに頼っている状態のところはかなり大きいかなというところがはっきりとしたかと思っています。

委員、よろしいでしょうか。

○委員 はい。

○委員長 ほかはいかがでしょう。何かありますか。

○委員 ありがとうございます。先ほど委員長からもあったように、まず始めてみて、5月にスタートされて、せたがや文化財団については6月からスタートということで、4つのトライアル事業の取組を拝聴しながら、やはりまだ先生方の負担が大きいということがあるのですが、このトライアルを今後進めるに当たって、どの程度その割合を減らしていくという見通しがあるのかがとても大事かと思うのです。トライアルを進めていく中で、どこで先生の手を離すのかというような見通しとかがございましたら教えていただきたいと思います。

あと、土曜日、日曜日の活動が多いかと思うのですが、そのときに学校とどう連携するか。土曜日、日曜日は学校が動いていないと思いますので、その辺の危機管理の対応などについても、現在考えられているということはなかなか難しいと思うので、今後の見通しについて簡単に教えていただければと思います。

○委員長 では、少し順番に行きたいと思いますが、委員、よろしいでしょうか。

○委員 土曜日、日曜日についても、テニス、陸上とも、学校さんの要望によってやるということで、そこら辺については先生の御理解の上やっているということです。

ソフトテニスのほうについては先生に代わってやっている部分が多いので、先生の御負担は軽減されるかなど。

あと、陸上については、どういう形にするかは、今のところ学校の先生の管理下でやっておるのですが、それを代替りの指導者が必要ですね。ただ、陸上の場合、どういう形でその指導者を確保できるかとか、難しい部分がございますが、そこら辺はちょっと今後の検討課題かなということなんです。

あと、合同部活動ということで、学校の校長先生、顧問の先生の御理解の上で走っている部分がございますので、文化財団さんの演劇の部分とはちょっと違った活動がございますので、自由にどこの学校でも来ていいよという形が、この合同部活動という形でなじむのかどうか、そこら辺を含めて、ちょっと検証していく必要がある。ちょっと言い方が抽象的になって申し訳ないですが、そのように考えております。

○委員長 では委員、お願いします。

○委員 基本的には今、委員が言ったことと同じですが、緊急の際の連絡網は、やはり教育委員会さんを通じて、きちんと連絡が取れるようにしていただきたいということは強く申し入れてございます。やはり子どもたちのことですので、何が起こっても、きちんと対応できる体制は、安全安心な部活動のためには絶対必要条件だと思いますので、それにつ

いては、これから始まりますが、やっていく中で、足りない部分については、どう改善していくか十分に検証していきたいとは思っております。

○委員長 ありがとうございます。委員、お願いします。

○委員 まず、いつぐらいに先生の手を離すのかですが、多種目ですのでいろいろな種目があります。生徒からのニーズもありますから、そういうことをアンケート等で鑑みながら、シーズンの、このスポーツ、このスポーツというようにやっていきたいと思っております。

それに伴う我々指導者のほうも、それに合う、何が指導できるかということでマッチングをしたいと思っていることと、生徒からのニーズというか、我々ができる指導がどうかも、ちょっと生徒に投げかけて、例えば太極拳とか、生徒からは多分ニーズは出ないと思いますが、こういうものはどうでしょうかとか、それが総合型の利点とかから、そういうところを鑑みながら、いつぐらいに学校の先生から我々にということでも検討しております。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、この話題はそろそろよろしいでしょうか。またほかに御質問、御意見、さらに追加はございますか。

では、今、委員からのアンケートという話が少しつながっていくかと思っておりますので、続いて今回、トライアル事業に関わってアンケートをどのように取っていくかというところで、事務局よりさらに説明をお願いします。

○事務局 では、資料3-1、3-2、3-3とそれぞれクリップ留めしているものを使って御説明します。今回、トライアル事業に参加している方たちへのアンケートということで、今日、皆さんから御意見をいただきましたら、それを反映したものを、早々に、遅くとも来週、早ければ今週にアンケートを依頼していくつもりで準備してきております。

資料3-1は、3つの中学校の部活に対して生徒に質問をするアンケート、資料3-2は、同じく3つの部活に対して顧問を対象にしたアンケート、資料3-3は、同様に3つございますが、指導者の方へのアンケートという形となっております。

まず、3-1の生徒を対象にしたものから御説明します。

1点訂正がございまして、3つそれぞれ陸上、ソフトテニス、体力向上部とあって、内容は途中までほぼ一緒ですが、東深沢の体力向上部の最後のページを御覧いただくと「14. 質問13」、「15. 質問14」とございます。ちょっと番号がずれてございまして、「質問13」は「質問14」に、「質問14」は「質問15」に御訂正をお願いいたします。

御説明については、共通部分が多いので、(船橋希望中学校陸上競技部)を御覧いただきながら御説明したいと思います。

まず最初に質問1で学年を聞いています。

質問2ですが、財団でトライアル事業をやっていますということで、その対象になってやっていることを御存じですかという内容です。

質問3については、満足度を聞いております。

質問4については、関連して理由を自由記入していただく欄です。

質問5も同様でございます。

そして質問6ですが、トライアル事業では、より満足のいく指導が受けられていますか。

質問7ですが、活動日によって指導者が変わることにどう思いますか。

めくっていただいて質問8、質問9は自由記入欄となっております。

質問10ですが、指導者とはコミュニケーションが取れていますか。

質問11が自由記入欄になっています。

それから質問12ですが、部活動の指導者が外部の方に変わることについてどう思いますかという質問で、質問13が自由記入となっております。

質問14ですが、財団に委託で指導をお願いしていますと。そして、今後、部活動がこのように外部の方に指導していただいたり、学校外の活動として移行されたりする可能性があることについてどう思いますかという質問で、質問15が、その自由記入欄となっております。ここまでが3つの部活動全部共通の質問です。

質問16以降が、この陸上部に限定しての質問になっています。質問16については、学校外のグラウンドや施設まで移動することについてどう思いますか。

質問17については、その関連の移動手段について聞いています。

ページをめくって、質問18は自由記入欄となっております。

質問19ですが、合同部活動のトライアルになっていますので、他校の生徒と部活動を行うことについてどう思いますかという質問で、質問20、21が自由記入欄となっております。

これが生徒対象のアンケートでございます。

次に、顧問の教員に対するアンケートとなっております。これは3つございますが、内容については、いずれも同じです。どれを御覧いただいても大丈夫ですが、1つだけ御説明します。

まず質問1ですが、トライアル事業の実施に当たり、部活動の運営について外部指導者

と十分な意思疎通が図れているかという質問です。質問 2 が関連の自由記入欄です。

次のページ中ほどですが、質問 3 については、トライアル事業は、教員の学校業務の負担軽減につながっているか。質問 4 と 5 が関連の自由記入欄です。

質問 6 ですが、トライアル事業実施前と比較して、部活動以外の学校業務に変化はありましたかという質問です。質問 7 については、関連の自由記入欄です。

それから質問 8 ですが、部活動の地域移行に関する取組を、来年度以降も活用したいと思いませんかという質問で、質問 9 と 10 について、関連の記入欄になっています。

質問 11 ですが、顧問の視点から見て、部活動の地域移行に関する取組について、気になる点や直してほしい点など、御意見をということになっております。

こちらの顧問教員については 3 つとも同じ質問となっています。

最後に指導者対象で、資料 3 - 3 でございます。こちらもほぼ同じですが、船橋希望中学校ソフトテニス部が少し質問が多いので、こちらを御覧いただいて御説明します。

質問 1 ですが、トライアル事業の実施に当たり、部活動の運営について学校と十分な意思疎通が図れているかという質問で、質問 2 が関連の記載です。

質問 3 ですが、トライアル事業は、教員の学校業務の負担軽減につながっていると思いませんかという質問で、質問 4 と 5 は関連の記載です。

質問 6 ですが、トライアル事業において、どの程度、効果的な部活動指導ができていますと感じますか。質問 7 が関連の記載です。

質問 8 と、次のページ、質問 9、10 については、このソフトテニス部のトライアル事業だけの質問ですが、大会引率について、学校の教員不在で指導者の方のみで引率することになった場合、不安はありますかという質問。質問 9、10 が関連の質問になっています。

特に質問 10 ですが、大会の運営について、外部指導員として、どのような支援・協力を行うことができますかと聞いています。

そして質問 11 ですが、外部指導者の視点から見て、部活動の地域移行に関する取組への御意見という欄になっております。

以上 3 つのアンケートについて御説明しました。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

ただいま御説明いただきました。回答いただける方の人数がそれほど多くはないので、どうしても自由記述、ちょっと全体としては記載いただくところの手間がかかるようなし

つらえになっていますが、ここのトライアルで適切に課題を見つけていかないと、次の、トライアルではなく、全体の移行、本実施へ移っていく過程で、課題が見えなくなってしまふとまずいというところで、かなり自由記述もあるかなというところがございます。

あわせて、私も事前にこのトライアルアンケートを見て、比較的4択と言うのですか、4つから選ばせるようなところを中心にやっております。これは、イエスかノーかというところは、全体として、今度集計していくときに政策を打ちやすいところがございます。3択ないしは5択と奇数になっていくと、どっちかよく分からなくなってしまいますので、4択あるいは2択のほうがよいということで、主にそのようなしつらえとなっています。

皆さんから御質問、御意見、「この項目はさらに追加した方がよいのではないか」などという御意見もございましたらお願いします。

○委員 アンケートの項目を見て少し思ったのですが、まず船橋希望中学校の陸上部の生徒対象のアンケートで、船橋希望中学校の陸上部のトライアルに関しては、船橋希望中学校の顧問が陸上専門で、かなり技術的にたけている教員がやっていると思うのですね。その部活動の生徒に対しての質問12で、「これまでも学校の先生からは技術的な指導を受けていないので、先生がいなくても問題ない」というような項目は、これは適切なのかなと。

もし担当の顧問が見たときに、もともと技術的指導を専門としてやっている教員が船橋希望にいるから、トライアルにお願いしますと来たのに、この質問を見ると、もしかすると、ちょっと変な誤解を招くというか、かなり技術的な指導を毎日やっていますので、ということが1つ思いました。

また、ソフトテニス部のほうにも同じような質問があるのですが、確かにソフトテニス部の顧問は専門ではないのですが、専門でない教員であっても、努力をして、指導書を読んだりして学んでいるので、もう少し言い方が、何ですかね、「外部指導の方からより専門的な技術を学べるので、先生がいなくても問題はない」なら、まだ何となく表現としてよいのですが、「学校の先生から技術的な指導を受けていないので、先生がいなくても問題ない」となると、ちょっと教員側としては、何か腑に落ちない部分というか、特に専門的にやっているほうからしても、専門的でなくても、頑張っている教員からしても、ちょっととげとげしくなってしまうかなと思いました。ちょっと感想です。

○委員長 貴重な御意見をありがとうございます。こういう質問項目をつくる時には、誰が回答するのか、その属性がどうなっているかも踏まえていかないと大変誤解を生んでしまう可能性があります。ここは修正していただければというところがございます。

ほか、いかがでしょうか。

○委員 ちょっと今のに関連して、僕も感じたところですが、やはり何か先入観というか、最初の前提で、多分学校の先生よりも外部のクラブのほうが指導力が、より専門的なものが受けられるという前提にすごく引っ張られているなと思うのと、例えばその逆の視点で行くと、生徒は自分の学校の先生のほうが安心できるという先入観もすごく感じてしまって、多分僕が考える子どもたちの信頼できるかどうかは、先生なのか外部指導者なのかではなくて、その人が信頼できるかどうかではないかと思っているので、これを聞いていくと、何か二極化して、その前提を基に、いろいろな項目がつけられてしまっているの、そういう誤解もあるかなとちょっと思いました。

なので、多分信頼できる指導員であれば、先生であろうと、外部の指導者であろうと問題はない、「はい」、「いいえ」みたいな項目はあっても、ごめんなさい、具体的に言うとさっきの、生徒対象の12番とかの「指導者が外部の方が変わることについて」を聞いているので、こうなるのかもしれないですが、何か僕の中では、きっと結論としては、先生だろうと信頼できない人は信頼できないし、外部の指導者だろうと信頼できる人はできると思うし、指導力も同じで、先生のほうが高い場合も全然あるし、外部の指導者のほうが低い場合も全然あるので、これはあまり、先生だから、外部指導者だからという主語での質問がちょっと多い印象は受けたので、そうなる、本当に聞きたいことが聞けないような気がしてしまいます。

事前の回で、確かに「先生がいないと不安だ」みたいなのが来ていましたが、多分それは、何も知らない状態で聞いたら絶対に「不安」と言うんです。でも、では、外部の人が実際、そこに無理やり出されて、嫌だと言っていた人が来て、外部の指導者がめちゃくちゃ信頼できる人だったら、多分「いや、こっちのほうがよかったです」と、話は全然ちょっと変わると思うので、せっかくやった上でのアンケートなので、その辺が引き出せるようにすると、「あっ、何かちょっと心配していたけれども、意外と大丈夫だったよね」みたいな結論が得られると、アンケートの価値があるかなと思いました。

あともう1点、対象として、これは保護者向けとかはないのですか。

○事務局 保護者の方にもアンケートは取りたいと思っております。今回は、保護者は、まだ始めたばかりなのでと思っております、段階を踏んで何度も取っていきたいと思っております。

○委員 分かりました、全然大丈夫です。どこかのタイミングで「これが受益者負担にな

ったら」みたいなところは聞いていただいたほうがよいかと思っていて、この指導が受けられているのであれば、例えば受益者負担で部費が高くなっても払えるなみたいな、割とサービス向上のみたいなニュアンスですが、そういう質問とかもしていかないと、さっきの最初のお話を聞いていても、割と今は、その予算が区から出てしまっているの、僕はその継続性が不安だと感じました。

今の形を、1年トライアルをして、では、その区の予算がなくなったときに「自分たちでやっていけるのか」と言われたときに、すごくいろいろクリアしなければいけない問題が多いので、そこもヒントをここで得られていくとよいのではないかと感じたので、すみません、ちょっと具体的ではないですが、その2つを意見として申し上げます。

○委員長 事務局、お願いします。

○事務局 今の御意見、どうもありがとうございます。そういう意味では、今回これはトライアルのアンケートを御覧いただいておりますが、一方で、昨年度も全体へのアンケートをしましたが、本年度、それも予定しておりまして、保護者に対してもアンケートを取っていきたいとも思っています。今の御意見は、どちらかという、そういうところにも尋ねていくということ想定する必要があるかと思っておりました。

○委員長 委員が御指摘いただいた前者の点はどうでしょうか。少し外部の人と学校の先生を区分けして、前提となっているのが、偏っているのではないかという御意見かと思いますが。

○事務局 大変難しいなとは思いますが、実は今回このアンケートも、3人の先生方にも見ていただいて直したりもしてまして、少し考えていきたいと思っておりますので……。

○委員 直してくれとまでは思っていないというか、こっち側が、僕らがそこに引っ張られてしまうと、何か本質を見誤るのではないかと思っているという意見としてちょっと聞いてもらえれば、はい。

○事務局 そうですね、事務局側としては、さっきもちょっとお話がありましたが、去年度、中学生の意見を聞いておりますので、少しそこに引っ張られた感は否めないかとも思っています。でも……。

○委員 そうですね、まさに僕もその印象で、多分生徒に聞いた意見がすごく反映されているなどは感じたので、ただ、さっき言ったようにそれは……。

○事務局 そうですね、おっしゃることを聞くと、確かにそのとおりだなと思っておりますので、少し事務局で考えて、3人の先生にまた見ていただいて直していきたく思います。

○委員長 恐らく皆さんに1回チェックしてもらったほうがよいと思うのですね。

○事務局 よろしいですかね、はい。

○委員長 やはりそれぞれ立場が違って、それはこのように偏っているのではないかというのを、少し時間はかかるかもしれないですが、もう1回見てもらったほうがよいと思います。

○事務局 そうですね、メールで送って御意見を伺いたいと思います。その前に先生からの御意見については、特に陸上部のほうなどは、まさにそのとおりだと思いましたので、そこはそういう視点で、指導者の方が既に頭にあって聞くので、そこはその視点で直したいと思います。

○委員長 その前に委員から……。

○委員 すみません、2点です。前回の話でもあったように、地域移行と言いつつ、完全には行かないので、やはり質問内容が、今だと、「どっちがいいですか」、「中学生、選んでください」という感じなので、「どうすればうまくやっていけるかな」というような質問事項が増えるといいかなということが1点です。

あと、ソフトテニス部の指導が週に2回ということは、確かに私も野球部ですので、同じグラウンドで目の当たりするのですが、陸上部のこの活動については、今は何回やられていますか。

○委員 陸上部は週に1回ですね。

○委員 ただ、今、週に1回は、まだ実際には行っていないと思うのです。

○委員 活動が、陸上については5月から来年3月までの火曜日、土曜日、日曜日のいずれかを使うのですが、全38回を予定していますので、週1まで行かない感じですかね。

○委員 今5月、船橋希望中学校の陸上部の活動を見てみると、恐らく、この間、行こうとはしていたのですが、雨が降って行けないのと……。

○事務局 先日は雨で中止でした。

○委員 そうです。あと土日は、結構今は大会があって、大会に出ているので、今、実際に何回実施しているのかなと。

○委員 この前、そうですね、1回5月16日にやって、その後、雨で中止で、この前の27日の土曜日は、私も行ったのですが、来ていただいていた。

○委員 そして、2回で生徒に質問と言うと、結構なかなか、まだ実感がないというか。あと、砧中と2校なのですが、本来もうちょっといたような学校数だったのですよね。だ

から、ちょっと子どもとしては、まだびんときていないかもしれないですね。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。恐らくこれはアンケートを取るタイミングの問題になってくると思いますので、これは事務局からも少し「どのようにしましょうか」という御相談があったので、イメージはいかがでしょうか。

○事務局 そうですね、何回か取ろうということで、まずは始まったときの、まだあまり体験していないときにどう感じているかを聞きたいと。それはどういう意味かということ、何回か同じ質問を取っていくことで、答えが変わってくるかもしれないという期待が多少あって、今回はこの質問を――始まったタイミングも、このそれぞれの事業によって少しずつ違うので、同じ条件にはならないのですが、少しそういう意図がございます。

ただ、今、御意見をいただいたところを修正することも想定するので、委員長からもお話があったように、それに少し時間が必要かとも思いますので、その中でタイミングをちょっと考えていけたらと思っております。

場合によっては、テニス部と陸上部と、始まったタイミングもちょっとずれがある、経験の回数もずれがあるので、同時ではなく取るということも、できないわけではありませんで、少し委員長などにも相談しながら考えていきたいと思えます。

○委員長 では副委員長、お願いします。

○副委員長 失礼します。皆さん、御意見ありがとうございました。それぞれの御意見、ごもつともだなど思うところもあって、中学校のお立場から言えば、さっきの質問項目などはちょっときついなというところも分かるなというところはありました。我々も共有しながら、再度確認する必要あるのかなと思いました。あと、ちょっとどちらかに寄っているのではないかという話もありました。

ただ1点、僕がちょっと気にしなければいけないと思うことは、今回は広く子どもたちに「どう思う？」ということよりは、今回は、あえてトライアルで、「学校の顧問の先生方ではない方に指導を受けましょう」というところが前提ではあるので、その部分については「学校の先生でない方に教わるのはどうだった？」という、こんなしつらえになっているということは、押さえておいたほうがいいかなと思えます。

そして、トライアルでいろいろな形でやっていって、事例がたまっていた中で、では今度は、また広く、全校の生徒さんなどに、「どんな形がいいと思うかな」と聞くときには、あまり偏らずにということもありかと思えますので、今回は、ちょっと聞き方とか文言に

については再度確認をすることも、あえて外部の方をお願いしている部分があるわけですので、その点はちょっと押さえてというか、僕らは共有しておいたほうがよいかなと思いましたが。

あと、ごめんなさい、私も事前に拝見しておいて、今さらあれですが、1点追加したほうがよいと思うことがあります。「生徒ファーストで行きましょう」ということが我々の出発点でしたので、顧問の先生方の質問項目の中に「生徒さんの様子がどのように変わったか？」という視点がちょっとまだ欠けていたかなと思いますので、ごめんなさい、今さらですが、ぜひそこはちょっと追加してもいいのかなと。

例えば地域の指導者の皆さんの質問6とか、「どの程度、効果的な部活動指導ができていますか」というものは、顧問の先生方にも伺ってよいのではないかと、思いましたので、すみません、今さらですが、付け加えて意見させていただきました。

以上になります。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。では委員、お願いします。

○委員 失礼いたします。委員の御指摘は、私もまさにごもっともだと思いました。生徒向けのアンケートをつくる時に、ある程度自由度の高い項目で広く意見を収集する方法と、ある程度具体的な選択肢を示してあげて選んでもらう方法があるかと思うのです。

理想的には、意見を幅広く、自由記述のような形で受け取ることがよいのですが、集計のこととか、いろいろな項目のことを考えると、ある程度選択肢を具体化してあげたほうが、生徒さんも答えやすいのだろうかなと思います。

確かに御指摘のあった12の問いとか、後ろの14については「何々だからこうだね」というのは、私も改めて少し誘導しているかなという印象を受けましたので、このアンケートどのように集計していくか、複数回やったときの変化をどのように見ていくのか。

アンケートといった場合、割合とかパーセントだけではなくて、ほかのアンケートの項目、ほかの問いとどういう関係性にあるのかが見れてくるとよいと思いますので、大変貴重な御意見だったと改めて思いました。

あと、私が気づいたところでは、特に生徒ファースト、生徒中心で行くと言ったときには、生徒さんのアンケートの結果はすごく大事にしなければいけないと思っています。その上で、例えば質問10の「指導者とはコミュニケーションが取れていますか」と聞かれた場合に、生徒は誰をイメージして、この質問に答えるかが少し疑問に思ったところです。

複数の指導者が関わっているような部活動とか、顧問と外部の方が併存しているような

場合には、生徒は具体的に誰をイメージするのかなということがありました。

あと、ほかを見てみると先生、顧問、指導者というキーワードが出てきていますので、その辺の、言葉の使い方と言うとあれですが、先生、顧問、指導者の使い分けを明確にしたほうが、回答者が混乱しなくてよいかと思った次第です。

指導者向けのアンケートについても、複数の指導者が関わっていると思うので、それぞれ1日でも関わった指導者に全て答えていただくのか、それとも、もうメインでやられている方に答えていただくのか、その辺も少し整理をした方がよいかと改めて思いました。

○委員長 ありがとうございます。委員、お願いします。

○委員 先生へのアンケートですが、先ほどもお話がありました、こちらですと負担がどうですかという聞き方になっていて、先ほど来、話がございますように、陸上については今、先生中心に動いていますので、多分、先生がこれを書くと、もう負担増と聞いていますので、これだけだと、では、大変だからやめてしまえとなってしまう。

ですので、例えば、先ほど委員からも負担軽減という話で御質問があったのですが、今、私ども、だから、どういう形でやったら負担軽減になるのかといった御意見を聞くような設問にしたほうが特によいのかなと。

そして、砧中の先生は陸上の経験はないということですが、先ほど来お話があったように、御自分で一生懸命勉強して、ただ、先生がいることによって、そこの部分の負担が軽減になっているのか、そういうことでは、砧中の先生には、そういったことを聞く意味があると思うのですが……。

ですから、例えば2時間だと手当は支給されないで、3時間以上だと出るのですかね。

○委員 いや、平日は出ないです。土日の特勤手当の……。

○委員 平日は出ないのですね、土日は出る、はい。ですから、お金が出るからどうこうという話ではないのですが、例えば手当の面とか、ほかの、私どもは先ほどお話ししたように大学生、大学の陸上部の生徒にお手伝いをお願いしたいと思っている、そういう補助の指導員がいるとよいと。

あとは、幾つか合同で何校か集まったときに、そういう陸上が得意な先生が何人か来れば、全部の学校の先生がそろわなくてもできるのか、ただ、うちの学校の生徒が行っている限りにおいては行くべきだとか、そこはいろいろな考えがあるでしょうと。

あと、今、兼業許可という話も文科省から出ていますから、そういう形ですと正式に報酬等を出せますので、ただ、お金だけの話ではないとか、いろいろ責任の問題とかがあ

りますので、そういう形がよいのかとか、そういう部分につながるような御回答をいただけるように、ちょっと抽象的で申し訳ないのですが、設問をもしできるのであれば、お願いしたいと思います。

○委員長 ありがとうございます。今、様々な意見が出ておりますので、恐らく共通して聞ける部分と、個別具体でやる部分は少し分けていかなければいけないだろうと。個別具体のところについては、ある意味、自由記述で書けるようにして、それが拾い上げられていくような形のほうが、全体としてはすっきりするかなという感じがします。

ですので、もう一度、いわゆる一般的に聞くものと、個別で聞くものを少し分けしたり、対象が誰なのか、ある程度精査して、こういう調査は、実は100%の問いはなかなかつくれないと考えるので、60点、70点ぐらいで、これぐらいだったら次の政策に生かせるだろうというラインを決めて取っていただくというところかなということでございます。

では委員、お願いします。

○委員 指導者を対象にしているアンケートの6に、「効果的な部活動指導ができていると感じていますか」というのがありますが、その「効果的な部活動指導」というものが漠然としていて、何ををもってそれをできているか、できていないかと判断するのが分からないと思います。

先生方は部活動について、基準というか、何か具体的なものがあると思うのですが、外部の指導者について、効果的な部活動指導とは一体何を指しているのかが、もう少し具体的であったり、事前にそのことがその指導者の方たちに周知してあったりとかいうことがあったほうがよいのかなと思います。

それぞれ効果的な部活動指導というものの基準が違っていると、そこがうまく統計できないのではないかと思います。

○委員長 ありがとうございます。

またこれは、ちょっと聞き方を再度検討していただいて、確認していくというところがあります。私たちも研究をしていたりすると、これは毎回同じような、偏っていないかとか、どういう聞き方がよいのかというところは壁にぶつかるところで、こちらについても、今回同じようなことに今ぶつかっているかなというところで、1個ずつクリアできればと思っている次第でございます。

すみません、では一旦これは置いて、次に行きます。残り約20分ですので、少し駆け足になると思います。

次第の4です。実は前回、昨年度から宿題となっている地域移行のキャッチフレーズ、つまり、どういうコンセプトで皆さんに訴えていくか、あるいはどのような旗を掲げていくかということで、私を中心に、先生方と少し相談をしながら出しました。

もちろんこれは途中経過で、最終的には皆さんの意見を伺いながら報告書等に載せられたらというところですが、初見の皆さんがたくさんいらっしゃいますので、少し説明の時間をいただきたいと思います。

こちらは地域クラブ活動への移行に関わって、どのように保護者の皆さん、生徒の皆さんや、あるいは組織的に世田谷はこういうことを目指すのだというところが、要は一言、あるいはワンフレーズみたいなところで言えるかをずっと考えてきました。

例えば<生徒や保護者の視点から>ということで、「つながる新たな仲間の輪、広がるスポーツと文化の世界」、例えばこういうものがあって、それがポスターとかにぼんと載ったり、あるいは学校での説明のときにこんなものが使われるというイメージでお聞きいただければと思いますが、見てのとおり、だあっと、もういっぱい並べまくったというところがございます。

「(生徒の)可能性を広げる地域クラブ活動」などという、あるいは「見つけた!新たな居場所、よりよい環境」などというところから。

あるいは<組織自体の視点から>で言えば、「学校と地域で生徒をともに育てる」とか、ちょっと難しい言葉で書いてあります「オルタナティブ」というのは「もう一つの」という意味ですが、もう一つの道みたいなのところがあったりと。

あるいは指導者向けに、「その働きが世田谷の未来を作る」、どこかのバイトの募集みたいな形になってしまって申し訳ないのですが、あとは「見つけた新しい仲間・指導者」などと幾つか、ちょっと私のほうで考えました。

キャッチフレーズを考えながら思ったことは、これを1個に集約するのは厳しいなというところがございます。

では、何でこういうことを考えたかということで、この裏面のページで、趣旨というところで、だあっと書きました。これまでの世田谷の地域移行のこの会議の中でたくさん出てきた御意見も踏まえて、やはり子どもを中心にやっていきたいというところで、趣旨の3段落、4段落目ぐらいですか、ここら辺が一つ大きなところになってくるかと思いますが、本部会では、これまで学校が担ってきた教育及び社会的インフラとしての部活動の機能を地域全体で担っていくことを重視し、同時に生徒中心、スチューデント・センタード

という言葉を使いました。

どうしてもファーストとなると、ファースト、セカンド、サードと、ちょっと順位づけになってしまうところがありまして、中心に据えるという意味でセンタードという言葉を使っております。

そして、円滑な地域移行に向けて新たな価値をみんなで共有しましょう、あるいは保護者とか団体とか、様々な、先生あるいは子ども、こういうのをステークホルダーと言いますが、みんなの理解と協力を得ることが大事ですよなどという言葉が書いてあります。

どのような方向性を示していくかで、次のページですが、世田谷の地域移行という新しい価値を生み出す、あるいは方向性はどうかというところで、一つは自己選択、生徒自身あるいは保護者が、自分たちでいろいろなことを選べるチャンスが広がるということが一つではないか。

それから、よりよい指導環境、これは先生がそのまま継続されている場合も全く同じですが、例えば先ほど合同部活動になったときに、よりよい専門的な指導環境がもらえる、あるいは継続的な指導がもらえる、さらに言えば、地域の中に入っていくことによって、多世代の交流とか世代を超えた地域との人とのつながり、それから例えばシーズン制を取っているような、先ほどの東深沢のような例を言えば、多種目とか、様々な人たちが集まる多志向などというところも一つあるかなというところ。

それから、中学生が言っていた新しい誇りというのですか、プライドみたいなところ、それから居場所づくりという意味では、サードプレイスなどという言葉がよく教育のところでは、あるいは社会面や福祉のところと言われるのですが、今までの学校、そして家庭、もう一つの居場所みたいな形のサードプレイスというところで、このようなところが新しい価値かな、こういうところが皆さんで共有できたらいいな、あるいは区民の皆様とも共有できたらいいなというところがございます。

もちろん、言葉がちょっと難しくなっていますので、発出するときには、もっと易しい言葉でやっていかなければいけないのですが、これまでのこの検討部会での皆さんの意見としては、ちょっと硬い言葉を使っているところがございます。

それから、「世田谷区だからこそ」というところの、大規模の90万人を超える自治体ですので、本当にいろいろな人たちがいて多様な資源がある。私はこんなに恵まれた資源を持っている区はないと感じていますので、これを生かしたい。だからこそ選べる機会がある。

地方の自治体ですと、疲弊しているところ、人口減少が起きているところだと選ぶ機会

はもうありませんが、これだけ選ぶ機会があるということは非常に重要なところ。

さらに言えば、先生方、地域の皆さんの中に、専門的な知識や技能を有している方がたくさんいて、さらにそれがうまく、一貫した継続体制ができればよいかというところ、それから、異なる世代間の交流とか多志向。

さらに言えば、先ほど申し上げたローカルプライドなどという、ちょっとこの言葉が適切かどうかは分からないのですが、その地域の誇りを持って、この部活地域移行の、地域活動クラブがもう一つの自分自身を立てさせる、プライドを持てる何か場所とか。

あと、小学生のための学童と同じように、貴重な居場所というようなところが幾つかあるかなと考えております。

これを踏まえたときに、では、このキャッチフレーズ、どこら辺がよいかということ、ちょっと私、実は選び切れずに、皆さんに投げたような形で、こういう1ページ目の最初の一覧で、ばあっと投げてしまったところでございます。

これを今議論していただくには、時間があまりにもなさ過ぎると。現在7時45分で、この会自体は8時に終了とお話ししておりますので、一旦これは皆さんに資料としてお持ちいただいて、「こんなキャッチフレーズでよいのではないの」とか、「いや、これはちょっと駄目だから、やはり新しいのが、こういうところはあった方がよいのではないの」とか、そのようなところを少し次回の宿題みたいにして、適切なものを二、三個選んで、報告書だったり、いろいろなポスターだったり、各校への啓発活動とかお話をするときに使わせていただいて、ですので、新たな価値のところでもいっぱいありましたが、これをうまく丸めて、ふわっと、みんなが分かりやすいようなものができたらいいなというところで、今回提案しております。

詳しくは、また読む時間もなかったと思いますので、読んでいただいて、加野課長、また次回に続きという形にしてよろしいですかね。ここで今、意見をいただくには時間があまりにもなさ過ぎるので、次の宿題というところで、よろしく願います。

皆さんよろしいですか。何かここで今一旦、もっと意見を言っておきたいということがあったら言っていただけるとありがたいのですが、よろしいですか。では、一旦これは宿題ということで、次回に意見をいただくということでございます。

それでは次第の5、その他で、まずは東京都作成のリーフレットの件について、事務局より説明をお願いします。

○事務局 参考資料として2つつけております。これはこのたび、つい先日、東京都から

送られてきた資料で、中身を御覧いただくと、大分文字がたくさん書いてあって、右上にあるように、保護者向けと地域関係者向けということで送られてきています。

御覧いただくと、何となく今日いらしている皆さんには少し共有できる感じかなと思うのですが、ちょっと理由が、まず先生の働き方改革のところが大分強く書いてあったりというところで、ここの検討会で進めてきている、先ほどからもいろいろな先生からお話が出ている生徒ファーストと、視点がちょっと違うかとも感じております。

ですので、あくまでも今日のこの会議での参考資料として共有するというので、世田谷区では、これを外に配布するということは今考えておりません。

ですが、裏側にあるQ&Aなどは、ここでも議論してきたり、外に説明をするときに活用できるような内容も書かれていたり、それから、これまで国や東京都が出してきた表現と少し違う、少し踏み込んだような表現も出ていますので、そこら辺を御参考に御覧いただければと思って配っております。

特に、都立公立学校保護者用の裏側ですと、Q&Aですが、地域連携と地域移行の違いは何ですかとか、この辺、大分話題になっているところでもありますので、大分踏み込んだ表現がされています。ということで、御参考に御覧いただければと思っております。

補足になりますが、世田谷区でもチラシまたはリーフレットをつくらうということで、今、準備をしたいと思っています。その辺についても、もし御意見があれば、いただければと思います。

御説明は以上です。

○委員長 ありがとうございます。東京都の資料を見ていただくと、本当にトップの真ん中に、ある種、不安をあおるという言い方は失礼ですが、困難ですと。

でも、こう言っでは、私、あまり東京都を批判してはあれですが、これは夢がないというか、面白くないと、これを言っでは会議録に残ってしまいますが、申し訳ございません。

何と言うか、やはりそういう子どもたちや保護者にとって、本当に次の未来が描けるようにやっていくということが新しい価値の、先ほど言っていた資料4にある、未来が見れるかというところが、私はすごく大事なメッセージだと思っているのですが、恐怖というか、危機であおっても人は動かないだろうということは、ちょっと感じるところでもあるところで、東京都には、何かあったときには言おうかなと——あっ、あまり言っではいけないですね——感じているところです。すみません。

では、ここはちょっと一旦置いて、次に報告書の中間まとめの案まで行ったところで、

皆さんから意見をいただきたいと思います。お願いします。

○事務局 では、報告書の中間まとめ案について御報告します。実は、報告書については今回、今年度に延ばして検討していくということで、一旦、3月の最終報告ではなくて、中間まとめを9月頃までにまとめたいと考えております。

今、事務局で鋭意作成中で、来週ぐらい、次の検討会の前に皆様にメールで一旦送りたいと思います。次の検討会までに、御意見がございましたら、メールか、もちろんお電話でも構いませんので御意見をお寄せいただいて、少しそれを反映したものをまとめて、次回御覧いただいた上でまとめていければと思っております。

ですので、会議のほかに、さっき委員長からも宿題があるので、少し宿題が多くなってしまいますが、逆にメールなどでいろいろ御意見を書いていただくと、忌憚のない御意見をいただけるかなというところもあると思いますので、申し訳ございませんが、ぜひ御協力いただければと思っております。

次回の検討委員会ですが、先ほどの宿題もございませし、まとめていく作業があるので、ちょっと間隔が短くなるかもしれませんが、6月下旬か7月上旬に開催できればと思いますので、日程はまた改めて御相談して決めていきたいと思っております。

説明は以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

東京都の参考資料と、今御報告あった中間まとめの件について、皆さんから御質問、御意見はございますでしょうか、よろしいでしょうか。

では、ほかに皆さんで確認しておくべきことはございますか。

事務局はいいですか、もう特によろしいですかね。

○委員 トライアル事業は見学に行けるのですか。

○事務局 はい、学校と先生方、または指導者のほうで大丈夫であれば、御見学いただくことは可能だと思います。どこを御覧になりたいとかはありますか。

○委員 いや、それはすごく軽い気持ちで、砧とかだったら全然近いので、陰から見せてもらうレベルで全然いいです。どういう様子かということが単純に、話を聞いていて興味があったので、邪魔にならない程度に、それによって対応いただくとかはなくて全然大丈夫なので、場所と時間を教えてもらえれば、「行けるときにのぞいてみたいな」ぐらいのレベルなので、はい。

○事務局 個別に調整をさせていただきます。ほかにも御希望の方がいらっしゃったら、

今日この後でもお声がけいただければと思います。行く場所が違って構いませんし、個別の調整をいたします。よろしくお願いたします。

○委員長 実は私も事務局に、見学したいということでありましたので、全て事務局に言って調整していただくというところをお願いしたいと思います。

ほか、いかがでしょうか、よろしいでしょうか。

では、冒頭にあった5回目の会議録の件ですが、追加で何か御指摘事項はございますでしょうか。

では、なければ、こちらの会議録を御承認いただいたという形にしたいと思います。

それでは、間もなく8時になりますので、これをもって第6回の検討委員会を閉会したいと思います。皆さん、遅くまでありがとうございました、お疲れさまでした。

午後7時56分閉会